



Title	IDUN III を出すにあたって
Author(s)	岡田, 令子
Citation	IDUN. 1976, 3
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/95890
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

IDUN III を出すにあたって

今年の夏は、デンマークも非常な暑さに見舞われたそうで、新聞を読んでいると、窓が開くようには設計されていないバスで通勤する乗客が、それをつくった技師の先見の明のなさを呪っているとか。今まで涼しくて凌ぎよかったのに、この暑さは全く予想外なことであり、これからもどんな変化が起るとも限りません。また、1974年の暮、コペンハーゲンの王室劇場で“死の勝利”と題するバレーを見る機会を得ましたが、これはルーマニヤ生れのフランス現代劇作家イオネスコの作品を基にして、デンマークのバレー巨匠フレミング・フリント (Flemming Flindt) が振り付けをしたものでした。ところが最近或る日本の週刊誌に、この作品のニューヨーク公演が、ヌード・シリーズの中に写真入りでおさまっており、さらに伝統的なバレー国がよくこのような前衛的なものをつくったと評価していました。

デンマークは地理的には小さい国ですが、このように新しいものや旧いものが雜居しており、仲々一面的にはとらえられないものだと今更ながら痛感させられています。

年々当語学科への入学者の中にも、当初からデンマークについて学びたいという明確な意図をもったものが増えて来ましたし、在学生、卒業生の中には、デンマーク研究を志して留学する者もでてきています。一方、この5月から就任したデンマーク人の客員教授は、自分の専門として日本語を学ぼうとする研究者で、当語学科でデンマークを教える時にも何らかの望ましい効果が出てくるのではないかと喜んでいます。

さて、私たちの学科も発足以来満10年が経過し、語科誌 IDUN I が出てからまる3年になりここにその第3号を発刊する運びになりました。第3号がまだ届かないで早速送るようにとの御依頼を今までお受けしましたが、実は、昨年度は費用の関係などから出版できず、今年になってしま

いました。

今回はデンマーク語の音声上の特色の一つである “stød” の考察, H. C. アナセンの作品分析, スカンディナヴィアの文学発祥地であるアイスランドに残る中世の一文献の検討などの一端を発表することになりました。読者の皆様の忌憚のない御批評ならびに御助言をいただくことができれば幸いです。

1976年11月

大阪外国語大学デンマーク語学科

主任 岡 田 令 子